

計画第3期 小中一貫教育とCSの充実へ

小中一貫・CS 通信

NO.46 R5.1.31 幕別町教育委員会 学校教育推進員

新しい年が明け3学期が始まりました。今年こそコロナ禍収束を願っていますが、年初の日本全国の感染状況は世界一とも言われる状態でした。最近は減少傾向となり5類へ変更との話も出ていますが、変異株置き換わりの可能性や外国人観光客の増大による影響等も指摘され、まだまだ警戒の日々が続きそうです。ただ、基本的な対応はこれまでと何も変わりませんので、感染対策を取りながら冬季休業中に貯めた元気で短い3学期を乗り切っていきましょう。今月は各学園の中学校登校や合同部会等、小中一貫教育の取組の様子を中心にお知らせします。

和気あいあいと交流！第2回中学校登校 12/19 札内東学園

12月19日(月)に、学習指導部の企画・運営による第2回中学校登校が行われました。北海道でも感染拡大が進む最中でしたが、感染症対策を万全に講じて実施されました。

小学校同士の交流としてドッジボールを行いました。学校対抗ではなく、白人小と札内北小が混在するグループを作り、同チームに違う



小学校の児童が味方になるようにしました。そのため、より一層交流と親睦を図ることができました。

国語科の授業体験も同様に白人小と北小が混在するグループを作り、そのグループで授業を受ける仕組みにしました。ここでもやはりグループ学習で活発に交流する様子が見受けられました。ドッジボールも国語の授業体験も、それぞれ30分間の短い時間でしたが、6年生はみな和気あいあいと楽しそうに活動していました。

一日登校に向けて、部会開催！ さつない学園 1月の動き

2月1日(水)の中学校一日登校に向けて、各部会が動いています。

12月27日(火)に、まなび部「中学校一日登校」部会が開かれました。中学校一日登校では、古舞小学校・途別小学校・札内南小学校の6年生児童110名が札内中学校に登校し一緒に学習します。実施に向けての打合せをこの部会で行い、内容や準備に関わる確認を行いました。内容については昨年度同様縮小した形とし、3班構成で学校施設見学や英語の体験授業、学習面・生活面についての説明会、中学校で作成した部活動紹介DVDの上映会とすることが確認されました。

また、特別支援学級在籍児童については体験授業等を別内容で実施することも確認されました。こころ部「特別支援教育」部会が担当するもので、2月1日当日の体験授業の時間に、児童たちの交流を目的とした企画を実施します。内容は、児童・先生の自己紹介、札内中学校クイズ、レクリエーションを予定しています。

札内中学校に進学する予定の6学年児童が一堂に会し、札内中学校教員による授業を通して、学習や人間関係づくりの不安を和らげるとともに、進学に向けた希望をもたせられるよう取組が進んでいます。

4つの部会で熟議！第2回小中合同部会 1/12 ちゅうるい学園

1月12日(木)、ちゅうるい学園第2回小中合同部会が開催されました。

まず、学園の学習指導部と生徒指導部から今年度の事業報告があり、その後、第2回の学園評価アンケートを基に4部会に分かれ熟議を行いました。

教務部会からは、「知識・技能として定着させるものを活かしながら、思考・判断力・表現力等を高める探究的な学びを授業実践できるよう取り組む。」



研修部会からは、「ICT活用の研修やICTを活用した交流促進が更に行えるようにしていく。」

指導部からは、「生活習慣の中でゲームの時間が増加していることが心配。同時に、視力の低下など、身体的な影響も出ることを危惧している。」

保体部からは、「ふるさと・キャリア教育は大切であり、保護者や地域住民にもっと理解や周知をしてもらう働きかけが必要である。小中学校9年間のふるさと・キャリア教育を更に充実させていく必要がある。」(意見抜粋)など、たくさんの意見交流ができ、充実した合同部会になりました。

次年度も、更に小中一貫教育を進めて行きたいと思えます。



活発な児童会・生徒会交流 まくべつ学園

まくべつ学園では、児童・生徒の交流の一つとして、「児童会・生徒会交流会」を年2回(今年度は7月7日、11月24日)「生徒会と児童会の新メンバーでお互いの活動を知り理解を深めること」、「小中お互いの活動に興味をもつこと」をねらいに実施しています。

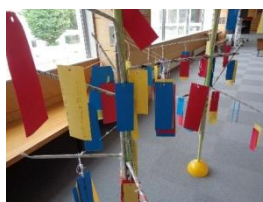
7月は小学校を会場に、11月は中学校を会場に、児童会および生徒会の役員が集まり、それぞれの学校での取組(児童会・生徒会行事)や委員会の活動内容・状況の交流を図りました。また、小中合同で取り組むことができる活動を確認しました。

今年度、小中合同で取り組む活動として、あいさつ運動、七夕の願い事、サンタへの願い事(短冊作成および小中巡回掲示)、を計画し実施しました。また、互いの活動に刺激を受け、地域のお年寄りにむけて、小学校では「川柳」を、中学校では、「暑中がき」、「年賀状」を贈る取組をしました。地域の方から学園に「お年寄りが元気になってありがたい。」との声が寄せられています。



小中それぞれの活動について紹介しあう交流会は、小学生・中学生が互いに刺激を受け、「さらにまた頑張ろう！」という意欲向上の場となっています。また、児童生徒の声から、小中合同での取組が、異年齢集団による交流を通して上級生としての自覚や責任、下級生としての役割など、人間関係について気付いたり学んだりする貴重な機会になっていることがうかがえました。

小中一貫教育は、「お互いを知ること」が大切です。教員と児童生徒の交流、教職員同士の交流だけではなく、今後も児童生徒の交流を推進し、児童会・生徒会活動のより一層の活性化を図りたいと、まくべつ学園では考えています。



小中学生の願いを一堂に掲示 【七夕の願い事】【サンタへの願い事】